



新入生の皆さんへ



新入生の皆さんご入学おめでとうございます。

大学生活が始まるにあたり、期待もある一方、不安な気持ちも抱えていることでしょう。そんな皆さんが大学生活を楽しめるよう在学生として少しながらアドバイスをしたいと思います。

一つ目は、何事にも目標を持って取り組むことです。大学生活では勉強、実習、サークル活動、行事、また新しい環境における生活など多くの事を経験するでしょう。それぞれに自分なりの目標を持って取り組むことで、やる気も充実度も向上し、密度の高い四年間となるでしょう。

二つ目は、友達を大切にすることです。今、皆さんの周りには大学受験を突破し、同じ志を持った仲間です。これから始まる大学生活では辛いこともたくさんあるでしょう。でも、そのようなとき、この仲間がとても大切な存在となります。時には衝突することもあるかもしれませんが、多くの経験を共にし、楽しいことは共有し、辛いことがあったら支えあい、切磋琢磨しながら過ごしてください。

三つ目は、積極的にサークル活動や行事に参加することです。この看護大学は、サークルや行事が充実しています。スポーツなどの運動系のサークルやボランティアなどの文化系のサークルもあり、楽しく取り組めると思います。同じ趣味を持った先輩や同級生と同じスポーツができ、看護に役立つサークルもあり、自分の学びを深めることや知識を得ることもできます。ボランティアサークルなどもあり、地域の方との交流や貴重な体験をすることもできます。秋には学校祭もあり大学内の方々、地域の方々とも交流ができ、充実感あふれるものになっています。これらの活動を通して、同級生との交流はもちろん先輩後輩のつながりも得ることができます。テストや実習など不安なことは先輩に相談しアドバイスをもらおうと辛いことも乗り越えられるでしょう。

私はこの大学生活は、看護学を学ぶとともに、人として成長できる貴重な期間だと思います。思い通りにいかないときがあっても自分への試練だと思い、あきらめずに乗り越えてください。友人、家族、先輩、先生方など背中を押してくれる人はたくさんいます。すべての経験が自分の力にできるよう、私たちも応援しています。

もくじ

- 1 新入生の皆さんへ
- 2 学外オリエンテーション
- 3 国際交流協定覚書締結
ホームページリニューアル
「恋するフォーチュンクッキー」動画制作
- 4 新教員紹介

- 5 新教員紹介
- 6 新教員紹介
大学院に入学して
看護研究発表会・学位論文発表会
- 7 卒業式・学位授与式
いきいきサロン

- 科学研究費採択状況
- 8 オープンキャンパスについて
「出前講座」はじめました!
編集後記

学外 オリエン テーション

4月11日(金)・12(土)日に、新入生を対象とした学外オリエンテーションが行われました。

アイスブレイキングやインディアカを行い、新入生同士で打ち解けた後、ホテルアスティくろひめに移動・宿泊しました。ホテルでは、他己紹介や先輩への質問コーナー等もあり、新入生はこれからの学生生活をイメージし、期待が膨らんだ様子でした。

では、今回参加した新入生と先輩達の感想を聞いてみましょう!



新入生



私は入学前からこの1泊2日のオリエンテーションを新しい友達と仲良くなれる機会だと思い、とても心待ちにしていました。

出発前に体育館で行ったインディアカは想像をはるかに超える楽しさで、優勝は逃したけれどチームの人とは一気に距離が縮まりました。

宿泊するホテルに到着し、1番に周囲の自然に驚きました。外は息が白くなるほど寒かったですが、空気はとても気持ちよく、なにより妙高山がとても綺麗でした。

夕飯を済ませ、先生や学長も含めたみんなでの似顔絵自己紹介は、みんなを1人1人知る上でのスタートとなりました。好きなものや趣

味が共通な人を知れて話す機会が持てた人も多かったと思います。

2日目の朝食バイキングはとても豪華で美味しく、感動したのを覚えています。

ちょっとしたゲームをした後、先輩方から多くのアドバイスをいただきました。ためになったこと、初めて知ったこと、1年生全員が大学生活について何かしらの得ることができたことと思います。

このオリエンテーションは友達をより知ることができ、楽しい大学生活の始まりとなりました。先生方、先輩方ありがとうございました。

在学生

私は1年生が1泊2日で参加する黒姫の学外オリエンテーションに、大学に入って疑問や不安に思っていることを聞き、それをアドバイスするためにってきました。特に多かったものとして一人暮らし、サークルについて、講義についてが挙げられていました。

まず、一人暮らしについてですが、親元を離れ家事、洗濯、掃除を全て自分で行わないといけません。一人暮らしをして親のありがたみが分かるようになりました。このように自立していくのも、今後社会人になるための糧となると思うので、一人暮らしの経験は非常に役に立つと思います。

次にサークルについてですが、サークルは高校の部活とは違ってみん

なで楽しく交流を深める場です。なので、初心者の方でも興味があれば気軽に入ることができます。また一つだけでなく、何個でもサークルに参加することが出来ます。興味があれば色々なサークルに顔を出してみてください。先輩が優しく迎え入れてくれます。

最後に講義についてですが、講義は1コマ90分と高校1コマの約1.5倍です。最初は集中して聞くのは難しいとは思いますが、じきに自分なりの集中力持続方法を見つけられると思いますし、コマとコマの間の休憩時間に背伸びや仮眠をとるなど自分なりのリラクゼーションをやるとうまいと思います。色々最初は不安だと思いますが、不安より楽しさが多いと思うので、この大学生活4年間をぜひ自分のものにしてください。



新入生



私は4月11日、12日のオリエンテーションに参加しました。入学して数日しか経ってなかったので、周りの子とうまく話せるか不安でした。ですが、当日のサイモン先生によるアイスブレイキングや、インディアカによってたくさんの方と会話をすることが出来ました。

くろひめへ移動してご飯を食べた後に、他己紹介をしました。まだ、喋ったことがない子のことも少しだけ知ることができ、話しかけるきっかけが作りやすくなりました。

翌日は、先輩方への質問コーナーが設けられ、これからの生活の不安な点や、勉強の仕方などを聞くことが出来ました。数人に分かれて先輩に直接質問することが出来たので、緊張せずに話せました。

今回のオリエンテーションに参加することによって、友達を作るきっかけができ、先輩方から大学生活に関して教えて頂くことができ、とても充実していました。先輩から教えて頂いた勉強法などをいかして、仲良くなれた友達とこれからの大学生活を楽しみたいです。

在学生

4月初旬に黒姫で行われた学外オリエンテーションに在学生として参加してきました。そこでは新入生が不安に思っているであろう実習のことをお話させていただいたり、グループワークと一緒に参加して履修についてやサークル活動についての疑問に対して、少しながらアドバイスをさせていただいたりと貴重な経験をさせていただきました。

新入生の表情を見ると新生活への期待と不安が入り混じってい

る表情をしていて、入学当時の気持ちを思い出しました。入学してからの3年間は講義や演習、実習で患者さんや看護師さんから学んだことがたくさんあり、忙しいながらも充実した生活を送ってきました。看護師になりたいという強い思いを持って入学してきた3年前の気持ちを忘れずに、残りの1年も充実した学生生活を送っていこうと改めて思わせてもらえる学外オリエンテーションでした。





ベトナム ホーチミン医科薬科大学と 国際交流協定覚書を締結しました

海外の大学と国際交流活動をするを目的として、平成25年4月に国際交流委員会が設置されました。同年12月よりベトナムのホーチミン医科薬科大学と国際交流協定の締結に向けた交渉を開始し、平成26年3月19日に委員長を含む3名がベトナムを訪問して、両大学間で国際交流協定覚書を締結しました。覚書の内容は、学生交流、教員・研究者の交流、共同研究および共同会議の開催などです。ホーチミン医科薬科大学は医学部、歯学部、薬学部、看護・医療技術学部などを有するベトナムでもトップクラスの医療系国立大学で、ベトナム南部の医療および医学系教育の拠点としての役割を担っています。交流はまだ始まったばかりですが、海外で活躍する看護人材の育成を視野に、今後活発な交流がなされることが期待されています。



ホーチミン医科薬科大学にて



報告会の様子

ホームページ検討ワーキンググループ

本学では、多様化するデバイスに対応する為と、ホームページ閲覧者の皆様にとって、より分かりやすい形での情報提供をめざし、平成26年3月28日にホームページの全面リニューアルを行いました。

リニューアルに向け、ホームページ検討ワーキングが発足され、平成25年7月に第1回の検討会議を開催、以来約8ヶ月間、作業を行ってまいりました。

9月には、教職員、学生の皆様から「キャッチコピー」を募集し、66点の応募をいただきました。その中から選出された4点を、トップページにて春夏秋冬の画像と共に掲載しております。

また、学内での活動の雰囲気や伝わるように、写真を多く取り入れました。看護系の大学への進学をお考えの皆様に、是非ご覧になっていただき、本学に興味を持っていただけたら幸いです。



(URL <http://www.niigata-cn.ac.jp/>)



「恋するフォーチュンクッキー」 動画制作

「恋するフォーチュンクッキー」動画制作を通して

『新潟県立看護大学の魅力をより多くの人に伝えたい』そんな思いからこのプロジェクトはスタートしました。動画は3分間で全61組が出演し、学生だけでなく大学教職員も参加しています。

この動画の魅力はどのシーンでも見ることができる出演者の笑顔だと思います。人との関わりが大切である看護の分野に、笑顔は欠かせません。みんなが笑顔で映っていることが本学の魅力・看護らしさを表していると感じます。

上越という地域柄、都会と比べれば制限があるかもしれませんが、自分たちがやる気になれば変えていけることはたくさんあります。上越という地で得られた出会いや学びは他の場所では経験できないものであり、とても価値あるものだと思います。このプロジェクトを通して、より深くその価値に気付かされました。

私たちは学生生活で患者さんをはじめ、指導者さんや地域の方々、多くの方たちの協力によって看護の心を学ばせていただいています。この動画を通して、上越で学ぶ私たち学生をより近い存在に感じていただけると嬉しいです。

これから新潟県立看護大学を県内外にアピールする動きを起こし、学生自身が誇れる学び舎を学生の手で作っていきたくと考えています。今後もぜひご期待ください。

撮影から公開まで制作期間1ヶ月と短い中、撮影協力をいただいた皆さん本当にありがとうございました。

動画はYoutubeにて公開中です。ぜひご覧ください。



新教員紹介



教授 野村 憲一

みなさま、はじめまして。2013年12月より、生物・医学領域の教授として赴任してまいりました野村憲一でございます。新潟県に住むのは初めてです。

出身は兵庫県姫路市です。平成7年に京都府立医大を卒業し、同第三内科学講座に入局、消化器内科医として働き始めました。大学院では血液内科学を選択し、博士号を取得しました。その後、血液内科医として働きながら、分子細胞遺伝学を研究しておりました。臨床薬理学にも関心がありまして、抗菌薬の薬物動態の研究により、臨床薬理研究推進財団の研究大賞も受賞しております。

職歴としましては、京都府立医大の助手、岩手医大の助手、鳥取大学の講師、准教授を経て、現職に至ります。

このようにいろんな地域で住んでまいりましたが、完全な関西

方言の話者ですので、出身地を間違われたことはいままで一度もありません。授業も当然、関西弁で行います。

それほどまでに関西弁に愛着がありますが、実は、もっとも気に入っている街は、関西の街ではありません。岩手県の盛岡が一番だと思っています。おそらく盛岡は世界中で最も美しい街です。山や川といった自然が美しいことはもちろんなのですが、なによりも、住んでいる人が美しい。東北の人は心が豊かで温かいのです。寒い地方の人たちは、助け合って生きているので、きっと、心が美しいのです。豪雪地帯である高田の人たちも、みんな、いい人たちばかりだろうと思っています。

高田の街には、立派なお城があり、また、雁木通りという美しい街並みがあります。そして、地域文化としては、高田醫女の三味線があります。高田に来たからには、ぜひとも三味線を習いたいですし、高田の民謡も覚えようと思っています。

高田の街に誇りをもつ看護師を育てるとともに、私自身も、高田の街を愛して、高田の街に貢献したいと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。



助教 風間 みえ

はじめまして、4月より臨床看護学領域・助産学の助教として勤務させていただいております風間みえです。現妙高市の出身です。

約7年間の病院勤務を経て、開業助産師および看護専門学校で教員として長らく勤務しておりましたが、縁があり出身地の近くである上越の地で働ける事に懐かしさで一杯です。

私の子ども時代には、高田駅の駅舎も本町の雁木通りもまだ木造であり、角巻の女性が雪下駄で行き交うイメージでした。現在は城下町の趣を残したまま街並みが整備され、高田城周辺の四季折々の変化とともに楽しんでいきたいと考えています。この地に赴任した直後から満開となった高田城周辺の桜を眺めて心を癒され、夏にかけて咲く蓮の花を心待ちにしている毎日です。桜も蓮も

淡いピンク色の花をつけますが、この色は心や体に満ち足りた気分をもたらしてくれる効果があるようです。長年携わってきた産科の施設では、備品にピンクを使った物を採用している所が多々ありました。施設のカーテンや分娩台から母子手帳の表紙など様々です。これらは、新しい命を生み出す母と生まれてくる新しい命に対して、心身共に満ち足りて次ぎのステップを踏み出せるようにと願ったものと思われま。出産を取り巻く環境には多くの課題がありますが、新しい命の誕生は感動的であり多くの期待を含む事でもあります。その瞬間に立ち会う事ができる職種を目指す学生と共に学ぶ立場に有る事に感謝しております。

大学教育に携わることは初めての経験ですが、高田の桜が私の長年親しんだ環境から新しい一歩を踏み出す後押しをしてくれて、蓮がさらに一歩進む力となることを期待する日々です。このような私ですが、今までに培ったものを伝えていくために真摯に取り組んでいく所存です。どうぞ、よろしく願いいたします。



助教 天谷 まり子

4月より臨床看護学領域・母性看護学助教として赴任しました。

私の経歴は産科病棟の助産師から始まり、次に成人病棟の看護師として糖尿病などの慢性疾患を抱える方や眼疾患をもつ方のケアにたずさわりました。そして、産科病棟に戻って、再び助産師としてのキャリアをつみました。これらの経験を得て、生まれてくる新しい生命の尊さと、その後の人生における健康が人々の幸福に寄与している大きさを実感しました。また、臨床で生じる健康課題に直面し、現代社会にそくした看護を開拓すべく看護学の研究に取り組みました。大学院では“糖尿病と妊娠”に関する研究をおこない、今後もその活動を継続していきたいと思っています。このような活動をもとに女性一人ひとりの健康支援の充足をはかることが、次世代の健康を構築し、ひいては性差や

世代差を超えた社会全体の健康増進に波及すると考えています。

看護学の分野では、高度化する医療に伴い科学的視点にたつ論理的思考をもとに知識や技術を実践の場で発揮することが重要です。そして、人の生命・人権を尊ぶ高い倫理観をもち活躍できる人が求められています。そのため、私は母性看護学の専門的な教育を通して、生命誕生という人間の根源にふれる学びや、自らも人としての喜びや成長を実感できる学問領域の素晴らしさをお伝えできればと思っています。そうやって分かち合えた学びを、学生の皆さんが将来それぞれの実践の場で活かしていただけたらと願っています。

最後に、高田開府400年や北陸新幹線開通という記念すべき時に、この上越の地で教員としてのスタートをきれたことを大変光栄に思います。また、私自身も学ぶ姿勢を忘れず、教育や研究活動を通じて皆さんの健康に貢献できる存在に成長していきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。



助教 川島 良子

はじめまして。4月より基礎看護学領域基礎看護学の助教として赴任いたしました川島良子です。私は、新潟県の出身です。上越には初めて参りました。高田の桜はきれいだと聞いてはおりましたが、今年初めて高田の桜を拝見し、美しさに感動いたしました。このような自然の豊かな上越で働くことができることに感謝しております。

私は、新潟市内の病院勤務を経て、看護専門学校で教員をしておりました。その後、大学院に進学し、他県での大学教育を経てこの新潟県立看護大学に参りました。

基礎看護学は、看護を志す学生が初めて看護とは何かを学ぶ科目であり、看護の実践には欠かせない看護技術を修得する領域です。大学では1年生、2年生が対象となります。この科目で看護の魅力を知ってもらい、将来の看護師像を養ってもらおうと同時に看護実践の能力を高めるための教育の実現を目指しています。学生の皆さんの看護への興味がわくような魅力ある教育を目指したいと考えています。そのためには教員である私も学び教員として成長できるように研究や教育を行っていきたくと考えています。皆さんとともに学びあい、看護の道を歩めたらよいと考えます。どうぞよろしくお願いいたします。



助教 谷内田 潤子

はじめまして。4月より基礎看護学領域の助教として赴任しました。県内の出身ですが高田公園の桜を見るのは今年が初めてで、見事な桜に魅了されました。来年の楽しみが一つできました。

私の研究テーマは、病とともに生きる人々と家族への援助方法の開発、それらの人々を支える看護者の育成についてです。私は、これまで看護師として糖尿病治療や透析療法、がん化学療法を受ける慢性期にある患者さんの看護に関わってきました。慢性疾患は治癒することはありません。患者さんが病に折り合いをつけ、その人らしい人生を送るためのお手伝いを研究者、教育者として行いたいと思っています。

私は西アフリカのニジェール共和国で2年間のボランティア活動を行った経験があります。国際協力を考えるようになったきっかけは、高校生の時、アフリカで活躍する助産師さんのニュースを見たことでした。「いつか私も!」と思いました。

ニジェールは国連開発計画(UNDP)の人間開発指数(2013)において世界186カ国中186番目に位置づけられています。つまり世界で最も貧しい国です。日本の若い女性はダイエットに励みスリムな体型を目指しますが、ニジェールの女性はふくよかな体(太っていること)に憧れるのだそうです。ニジェールでは、ふくよかな女性は魅力的とされ、太っていることは男女問わずステータスの一つでした。続きは、基礎・地域看護学共同研究室へどうぞ。

健康へのニーズは年齢、性別、宗教、人種や国籍を問わず人々の普遍的な願いです。個人、地域、国際社会の健康のニーズに応じることが看護者の使命であり、いかなる対象においても看護の本質は変わることはないと思います。看護の魅力を学生の皆さんに伝えていきたいと考えています。

研究者、教育者としては1年目です。学生のみなさんと一緒に成長していきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願いいたします。



助手 高橋 祥子

はじめまして。4月より小児看護学の助手としてお世話になっております。

私は上越出身で、本学の2期生として学んだ卒業生でもあります。大学卒業後は県内の病院に就職し、看護師として勤務していました。この度、久しぶりに上越に戻ることで、海や山に囲まれた豊かな自然や、おいしいご飯、人々の温かさに触れ、改めて地元・上越の素晴らしさを感じております。そして休日は、日頃の運動不足解消のため、アウトドア・アクティビティに色々挑戦し、8年ぶりの上越での生活を楽しまないと意気込んでいます。

臨床では、在学中の実習や専門ゼミを通して小児看護に興味を持ち、小児科、小児外科、形成外科の小児混合病棟で勤務していました。多種多様な年齢や疾患をもつ患者様やご家族の方々との関わりの中

で、抱えている不安や様々な悩みを知り、多くのことを学ばせていただきました。その一方で、自分自身の力不足を痛感することもあり、今までの経験を振り返り学びを深めて成長したい、今後も小児看護に携わり貢献していきたい、という思いが益々強くなりました。臨床では辛く大変なこともありましたが、子ども達の小さな体から出る大きなパワーにたくさんの元気をもらい、小児看護の楽しさも実感しました。ぜひ学生の皆さんにも、小児看護の魅力や喜びを感じていただけるようなお手伝いができたらと思っています。

卒業以来の母校での生活は、懐かしさを感じると共に、学生時代にお世話になった先生方も多く、日々身の引き締まる思いで勤務しております。私自身、まだまだ臨床経験も浅く、教員としては初心者です。領域の先生方をはじめ、教職員の皆様からのご指導を賜りながら、学生の皆さんと共に成長していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。





助手 瀧澤 ひかる

はじめまして。4月より精神看護学の助手としてお世話になっています、瀧澤ひかと申します。私は上越市出身で、本学の第4期卒業生でもあります。本学の助手になり、先生方にご指導をいただく中で、改めて先生方のすばさ、志の高さを知り、日々感銘を受けています。そして、学生の皆さんのフレッシュさや一生懸命さに元気をもらっている毎日です。

学生の頃を思い返すと、ゼミメンバーで学祭に出店したりと楽しいこともたくさんありましたが、楽だった学年はなかったように思います。常にたくさんの課題があり、どの学年でもそれを乗り越えるのに必死でした。しかし、それを乗り越えた時の達成感、それまでに感じたことがないくらい大きなものでした。

そして、つらく厳しい状況を乗り越えるには、仲間の力が必要なのだ強く学びました。実習期間中は自分たちのグループ名を「ポップdeキュート」と名付け、結束を固め励ましあっていました。緊張して苦しい時など、「ポップdeキュート!」と声をかけあい笑いあうと、緊張が

新教員紹介

ほぐれ、笑顔で集中して実習に取り組むことができたのを覚えています。失敗して落ち込むこともありましたが、たくさんの課題を乗り越えることができたのは、苦しい中でもユーモアを大切に笑わせてくれる仲間、一緒に学んでくれる仲間、そして的確なご指導をしてくださった先生方がいたからだと思います。楽しい気持ちがパワーを生み出し、課題と真剣に向き合い、学ぶ力をより強くしていたように思います。看護の現場でもそれは変わらず、多くの方々に支えられ、育ててもらい、チームでなければ乗り越えられなかったことばかりだと感じています。

精神科での経験は慢性期病棟での経験しかなく、看護師としても未熟であり、学ばなければいけないことがたくさんあります。皆様にご指導していただきながら、学生の皆さんと一緒に考え悩みながら成長していきたいと思っています。どうぞよろしくお願致します。

大学院に入学して

私は今年4月から大学院へ入学し、がん看護の専門看護師コースで学んでいます。

私はもともと都市部の大学病院で9年間勤務していました。当時は研修に参加する機会も多く、また専門看護師の先輩にもすぐ相談出来る環境だったので、自分が大学院へ進学するなんて想像すらしていませんでした。

しかし新潟県糸魚川市に結婚のため引っ越し、就職してからは、研修会に参加する機会も減り、またどこで勉強できるのかもわからず、今までのあやふやな知識のまま看護をしていることに不安や焦りを覚えました。また高齢化・少子化・家族の介護力の不足・社会資源の不足など地域の問題や、地域独特の文化の違いを経験し、自分の知識や視野の狭さを感じました。

そんな時に新潟県立看護大学で開かれたエンド・オブ・ライフケア研修会に参加させていただきました。その場で、看護大学の職員の方から「エンド・オブ・ライフケア(ELNEC-J)のスタッフとして参加いただける方を募集しています。」との声があり、スタッフと

して参加させていただくことになったのです。そのELNEC-Jのなかで学ぶのはとても有意義で、ここの大学の環境で学びたいという気持ちが大きくなったのが、受験のきっかけでした。

現在病棟で3交代の勤務をしながら3年間の長期履修を活用し、休日に大学院に通っています。大学院は学生が主体的になって、プレゼンやディスカッションを行っていきます。そのため、授業前にその内容を自分なりにまとめ、理解する必要があります。10年間学生から離れていた私にとって、大学院の事前課題や家事・仕事と、時間に追われながら生活するのは大変でした。しかし大学院では「基盤看護分野」、「共通基盤分野」、「専門分野」と多角的な視点を学習するため、新しい様々な知識が増えるのは刺激的で楽しく、それを現場で実際経験することで学びが深まります。

これからまだまだ長い道のりですが、支えてくれる家族と送り出してくれる職場の方々、元気づけてくれる院生に感謝しつつ、頑張っていきたいです。



平成25年12月17日(火)に、平成25年度の看護研究発表会が行われました。

9期生は、約8か月の時間をかけ、卒業論文の作成を行ってきました。当日は、在学生以外にも実習施設の指導者様等多数の方にお越し頂きました。発表だけでなく、今後の課題等有意義なディスカッションを行い、充実感や達成感を得ているように見えました。

また、平成26年3月10日(月)には、大学院の学位論文発表会が行われました。大学院生としての集大成である研究成果を堂々と発表し、研究者や専門看護師としての新たなスタート地点に向かっていくように見えました。(写真は、看護研究発表会の様子です)



看護研究発表会・学位論文発表会

卒業式・学位授与式

3月14日(金)に卒業式と学位授与式が行われました。学部を卒業した91名、大学院を修了した8名が卒業証書と学位記を受け取りました。卒業生・修了生は、大学を離れるさみしさを抱きながらも、学びを得た充実感で溢れているように見えました。



泉田知事の祝辞



いきいきサロン

本年度第1回目のいきいきサロンが5月22日(木)に行われました。「聞き上手は話させ上手〜きくということについて一緒に考えてみませんか」というテーマで、本学の岡村典子准教授がお話させて頂きました。当日は139名の多くの方々に参加頂き、参加者の方と対話をしながら和らいだ雰囲気の中で楽しい時間を過ごすことができました。今後のいきいきサロンは、以下のような日程になっています。皆様も日々をいきいきと過ごすためのヒントを得るために、是非お越し下さい。



日 時	テーマ	講 師
7/10(木) 18:30~19:30	どうしたらいい? 認知症を抱えている方との関わり方	新潟労災病院 認知症看護認定看護師 村田 悦子先生
9/18(木) 18:30~19:30	肩こりについて	上越地域医療センター リハビリテーションセンター室長 大竹 朗先生
10/16(木) 18:30~19:30	漢方診療の基礎、わかり易い漢方 〜これで悩みは解決する〜	高田メディカルクリニック 院長 古川 一雄先生
11/13(木) 18:30~19:30	貧血はいろんな病気の初期症状です	新潟県立看護大学 教授 野村 憲一先生

科学研究費採択状況

平成26年度科学研究費採択課題一覧

1 継続課題

研究代表者	課 題 (期 間)	研究種目
藤田 尚	韓国出土古人骨への自然人類学的総合アプローチ(24~26年度)	基盤B・海外
渡辺 弘之	ベトナムにおける社会復帰が困難なハンセン病(元)患者のQOLと生活支援の研究(24~26年度)	基盤研究C
平澤 則子	在宅難病患者と家族のソーシャル・キャピタルと生活満足度に関する実証的研究(24~28年度)	基盤研究C
小林 綾子	降雪地域の特性を生かした2型糖尿病患者の運動療法継続に向けた支援方法の検討(24~26年度)	若手研究B
加賀美 亜矢子	認知症高齢者の排便状況に関連した行動心理症状を予防する施設ケアの検討(24~26年度)	若手研究B
水口 陽子	看護学生の生活調整能力育成のための食生活モニタリングを用いた学習教材の開発(25~27年度)	基盤研究C
岡村 典子	中堅看護師の就業継続に向けた管理者向け支援習得プログラムとアウトカム指標の作成(25~27年度)	基盤研究C
山田 正実	COPD患者と家族がともに取り組むセルフマネジメントを支援する教育プログラム(25~27年度)	基盤研究C
酒井 禎子	地方都市の高齢がん患者と家族の療養生活を支える「文化」を基盤とした看護モデル開発(25~27年度)	基盤研究C
高島 葉子	助産事故後の当事者間の信頼関係をつなぐ「岐分」を意識した初期対応モデルの構築(25~27年度)	基盤研究C
角山 裕美子	術後補助化学療法を受ける慢性疾患をもつ高齢がん患者のセルフケアに関する研究(25~27年度)	若手研究B

2 新規採択課題

研究代表者	課 題 (期 間)	研究種目
石田 和子	化学療法に伴う吃逆の統合支援マネジメントモデルの開発と有用性の検討(26~28年度)	基盤研究C
高柳 智子	脳血管疾患患者の移乗時見守りから自立へのプロセスを支援するケアプロトコルの開発(26~29年度)	基盤研究C
高林 知佳子	介護をしながら働く女性看護師のワーク・ファミリー・コンフリクトの規定要因と課題(26~28年度)	基盤研究C
片平 伸子	小規模多機能型居宅介護事業の特性を活かした看護プログラムの開発(26~28年度)	基盤研究C
渡邊 千春	EBPに基づいた終末期がん患者・家族への輸液療法意思決定支援ガイドの導入と評価(26~28年度)	若手研究B



新潟県立看護大学が「どんな大学か」を皆さんにお伝えするために、オープンキャンパスを開催します。例年、体験学習や学長室訪問、在学生との懇談など、多彩なプログラムで実際に見て、聞いて、触れて、体験していただく内容となっています。

受験を間近に控えた高校3年生はもとより、社会人入学をお考えの方、編入希望の方、保護者の方、看護系大学へ将来進学を考えている高校1・2年生も大歓迎です。

ぜひご参加ください。

開催期日	第1回:平成26年8月1日(金) 11:00~16:00 第2回:平成26年8月26日(火) 11:00~16:00
内容	①大学概要・入試概要説明 ②学長室訪問・在学生との懇談 ③体験学習 ④施設見学 ⑤個別相談 等を行う予定です。 ※内容は変更する可能性があります。
申込方法	大学ホームページをご覧ください。
申込期限	各開催日の7日前まで
問い合わせ先	教務学生課教務係 電話025-526-2811、E-mail kyoumu@niigata-cn.ac.jp

※詳細は大学ホームページ(<http://www.niigata-cn.ac.jp/>)をご覧ください。



新潟県立看護大学に併設されている看護研究交流センターでは、今年の4月から新たに「出前講座」を始めました。今まで、大学の建学の精神である「ゆうゆう・くらしづくり」に基づき、大学の教育・研究の成果を地域へ還元することを目的とし、公開講座の開催や地域課題研究の実施など様々な取り組みを行ってきました。今年度からは、今までの取り組みに加え「出前講座」を行うこととなりました。

これまでの公開講座などは、大学で開催されることが多く、大学に出向くことが困難だったり、面倒に思ったりする方も多かったかと思います。そこで、より多くの方に大学を活用いただき、地域の皆さんが大学を身近に感じていただくため「出前講座」を行うこととなりました。

本事業は、本学教員の研究成果等を地域へ還元する地域貢献活動の一環と位置づけ、地域の教育機関、市民団体及び企業等の要望に応じ、本学教員が地域に出向き講義等を行う事業で、すでに1ヶ月あまりで各種団体様から十数件のご依頼をいただいております。

事業の対象地域等については、昨年、地域連携に関する協定



を締結させていただいた上越市、妙高市、糸魚川市とし、その地域にお住まいの地域住民、団体等が主催する概ね10人以上の集会等を対象としています。ただし、営利活動、特定政治、宗教の表現等を目的とし実施される場合は対象外となります。

なお、必要経費については、講師料及び謝金等は不要ですが、本学規定による旅費のご負担をお願いしています。

地域の皆様の生涯学習の機会としてお役立ていただけるよう、医療・福祉・健康等に関する17題の講演テーマを用意しています。その他のテーマについてもご相談をいただければ対応をさせていただきます。お気軽にご相談ください。

詳しい内容等については、本学看護研究交流センターホームページにてご確認ください。(URL→<http://www.nirin.jp/>)



公立大学法人
新潟県立看護大学
Niigata College of Nursing

〒943-0147 新潟県上越市新南町240番地
Tel 025-526-2811 Fax 025-526-2815
E-mail soumu@niigata-cn.ac.jp

編集
後記

今回の25号は、学生達が日ごろどのように大学の中で活動しているのかということをお伝えできればという思いで作成しています。編集にあたり、学生達は看護に関する学習はもちろん、学生間や教員、地域の方々等と積極的に関わりながら、多くの学びを得ることに気がつきました。これからもポルティコの広場を通して、学生達の学びを皆様方に少しでも伝えていきたいと思っています。

入試・広報委員：渡邊 千春

